



☆21世紀最初の年もあとわずかとなりましたが、同時多発自爆テロに加え、細菌テロまで発生し、「なかったことに」したい1年になってしまいました。ことにPCO関係者にとって、細菌テロには悲憤慷慨です。人間の愚行から人間を守る技術はPCOのマニュアルにはありません。猛省・厳禁を促したいものです。

☆『標本棚』のテーマは次号も「私の料理」です。ご自慢のメニュー等、ぜひご紹介ください。

APEX CLUB

アペックス産業株式会社

'01/11 第13号

『APEX CLUB』

発行 2001年11月15日 (通算第13号)
発行所 アペックス産業(株) [APEX CLUB] 編集委員会
〒105-0014 東京都港区芝2-23-4
電話 03-3455-6474 FAX 03-3455-6558
発行人 元木 貢 (編集委員) 和田芳武 白坂昭子
山口力広 三浦二郎
(事務局) 西海 彩
制作協力 株式会社オービット

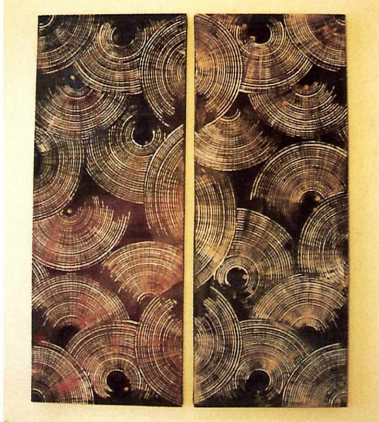
ヒーリング・アートの世界

- プロフィール 上村真理子(かみむらまりこ) 東京都出身。辰年。米国ヴァージニア州メリーマウント大学コマーシャル・アート科卒。芝美術研究所(日本画科)庭野修身氏に師事。インテリアやアート業界でのサラリーマン時代を経て、現在、ハワイの古代の教えHUNAを基にしたヒーリング・アートとして、ボディーワークのクラス講師。また、古代ハワイ式のロミロミ・マッサージ・セラピーを行ない、セルフ・ヒーリング指導を行なっている。
- ＊1997年～1999年 芝美術研究所グループ展
 - ＊1999年 (株)一枚の絵主催「全国コンクール」日本画部門銅賞
 - ＊同年 (株)サンゲツの壁紙のデザインとして採用される
 - ＊同年 京都のホテルの部屋に作品3点設置
 - ＊同年 岡山県作東役場のパレンティン・アート・コンクールに出品
 - ＊2000年 Winsor & Newton国際アートコンクール出品
 - ＊2001年 初個展をギャラリー広尾で開催



とんぼの夢

グリーンの色はインドやパキスタン訪問後で、イスラムの図柄に影響されているかも……。



“わ”

宇宙に存在するすべてのものは、お互いに影響しあっています。

草と風Ⅰ&Ⅱ
型紙のデザインを生かして仕上げました。水色は白翠末を使用。紫は藤紫色です。



朝もやの竹やぶ

キラキラしているのは翡翠です。もやのイメージを出すのに苦労しました。竹の感じを出すためにパネルも細長く特注で作りました。



ギャラリー

作家 上村真理子

作品「Fura Fura」と作者

めのう、山吹の岩絵の具を使用。



●作者寸言 作品を通じて、大自然の「気」を感じてもらい、こころを癒したり、元気にする、また自然の持つ不思議な力を描いていきたいと思っています。

大自然の気は、人間も同様に素朴に生きれば、人生を豊かで平和なものにしていく事ができる事を教えてくれるような気が致します。

むし籠

床の間



若い二人が何やらゴチャゴチャ言っている。室内塵からダニを分離する仕事で検体を取って来た人の書いた《採取場所》の記述が分からないらしい。「どれどれ」と中年が記述に目を通すと、「Aホテル〇号和室の畳および一段高い所にある畳より」とある。この《一段高いところにある畳》が何だか分からないらしい。

「床の間のことだよ。床の間の無い家で育ったにしても、床の間も知らないのかな」と中年が時代の差を感じながら言うと、若い一人が「床の間ぐらい知っていますよ。布団を敷いて寝る部屋でしょう?」と来た。もう一人も《床を延べる部屋》説に賛成しそうな表情だ。

情ないと思いつつ、考えてみると中年は逆に、ピロティーやカウチやクロゼットが、あまりよく分からない。中年がガックリ老いを感じたところで床の間論議は幕となった。

クロベ

当社とつながりのある同業のH社では、今、社内で猫を飼っている。元はと言えば、H社がネズミ侵入防

止工事をしたJ社の天井裏で、親に見捨てられた仔猫二匹を救出して来たのだ。(なぜ天井裏に猫が侵入したのか、ここでは問題にしない)

雌の三毛は「モモコ」と名付けられ、三カ月程で養子に貰われ、雄の「クロベ」が残った。飼ひ続けるうちに「クロベ」を特訓しようと言う話になった。以前、料理屋の窓から入り込んだ野良猫がネズミを捕え、料理屋の主人から美味しい餌をもらい、以後、ネズミが居る様子の時に主人が窓を開けておくと、ちゃんとネズミを捕え、翌朝それを主人に見せては餌をもらうようになったというテレビの動物番組があり、それがヒントだった。クロベをネズミ捕り専門の猫に仕立てようというわけだ。



業務繁多で文字通り猫の手も借りたいのか、安い餌代で済む猫をコキ使

削減を図りたいのか、思惑はいずれにせよ、訓練の結果次第では、社員がリストラ(?)という事態も予想され、一同、クロベの特訓の成果に大きな関心を寄せている。

ちなみに、ネズミ捕り猫として一人(猫)前になっても、リリースはするが売りにには出さない予定とのこと。乞、ご期待!

おじやま虫

日本ベストコントロール協会『害虫スライド集』より撮影/其田益成氏



カツブシチャタテ

チャタテムシ

【プロフィール】比較的小さい体、大きな頭部の糸状の長い触角が特徴の微細な昆虫で、チャタテムシ目を構成する。多湿で薄暗い環境を好み、生きているカビ、酵母、藻類などを好んで餌としている。屋内では古文書や図書、木材、畳、壁紙など、カビの生えたところによく発生し、保存食品などにも発生することがある。

【種類】世界では約二十属四十種ほどのチャタテムシが家屋内より報告されているが、わが国では屋内において十種類程度の発生が知られている。不快害虫、食品害虫として問題になるのは、主にヒラタチャタテや

カツブシチャタテ等の仲間である。

【駆除】チャタテムシは屋内に普通に生息しており、通常は大きな害も無く、特に駆除する必要もない。室内では風通しが悪く、暖かい場所に生息しているので、大量発生を防ぐには、このような場所を低温、低湿に保ち、カビの発生を防ぐことが何よりも重要である。

屋内において発生したものについては、ビレスロイド含有のエアゾール剤の噴射、フェニトロチオン、ジクロロボス等の有機燐剤の噴霧、煙霧が有効だが、防カビ剤の方が効果的なことも多い。

虫

めがね

☆去る九月十二日から十四日まで、アジア・オセアニアの十一カ国からなる「害虫防除連盟(FAOPMA)」の年次大会が台湾(台北)で開催されました。一九八八年に日本で設立総会を開催して以来、オーストラリア、イスラエルを含む各地で毎年開催してきたPCOの祭典です。

今回は加盟各国(日本からは約七十名)の他、アメリカ、イギリスなど十六カ国から約二百五十名が参加しました。

大会では、アメリカPCO協会(NPMA)のジュディ・ドールド会長をはじめ、三名の元会長ほか多数のスピーカーが招待され、技術や経営の講演がありました。

☆我々は前日に台北入りしましたが、台風の影響で七時間遅れの離陸となり、ようやくホテルに到着してテレビをつけると、世界貿易センターのツインタワービルに飛行機が突っ込むという衝撃的な映像が目飛び込んできました。

翌日の大会では、冒頭にテロの犠牲者を悼んで黙祷を行ない、断固としてテロに立ち向かうと誓い合いましたが、スピーカー各氏は祖国の惨状を心配しながらも、三日間の日程の最後まで参加され、パーティにまで出席されたのは立派でした。

来年は日本(横浜)での開催です。日本の取り組みをアピールすべく準備委員会がスタートしました。(貢)